

## こみゆにていー戸隠

発行者：戸隠地区住民自治協議会長 羽場 謙一 【令和 6年 9月 20日発行】

〒381-4102 長野市戸隠豊岡 1554 tel.(026)254-2490 fax.(026)254-2327

### 人権・福祉大会

## 防災テーマに 避難所体験や 講演会を開催

防災をテーマとした「戸隠地区人権・福祉大会」が七月六日に戸隠農村環境改善センターで開催されました。当日は避難所で使う段ボールベッドや簡易トイレなどが紹介されたほか、防災・減災に関する講演会、フレイル（高齢により心と体が虚弱になる状態）予防体操などが行われました。地域たすけあい事業「とがくし号」の展示もあり、地区住民や住民自治協議会の関係者など、六十七名が参加しました。

### フレイル予防体操

市地域包括ケア推進課の職員がフレイル予防になる「はつらつ体操」を指導しました。筋トレやストレッチなどをバランスよく行い、暑さに負けずに食事をしつかり摂ることがフレイル予防になるということです。

参加者は講師に合わせて肩や腕、足などを動かしていました。



講師に合わせてフレイル予防体操

### 模擬避難所を体験

最初に市危機管理防災課の職員が、災害時の避難所設置などについて概要を話し、その後、避難所で使われる段ボールベッドや簡易トイレ、間仕切りについて、組み立て方法や使用方法などを説明しました。段ボールベッドについては、参加者が実際に組み立て、横になって寝心地を確かめるなどしていました。このほか、避難時の持ち出しセット、支所が保管、備蓄し

ている炊き出し用の大鍋、発電機や紙オムツ、非常食などの展示もありました。参加者は「避難所の様子がわかった。特に段ボールベッドを作ったのは参考になった」と話していました。

### 防災・減災講演会

講演会では兵庫県立大学院准教授の松川杏寧（まつかわ あんな）氏が「地域コミュニティに根差した防災・減災の取り組み」と題し「安心して暮らせる社会を実現することで、災害を小さくすることができる」と話されました。また、能登半島地震を例に、高齢者が多い地域での避難所対応や復興への課題などについて述べました。



段ボールベッドを組み立ててみました

## 高千穂町

五年ぶりの

ホームステイ

小・中学生

五名が参加

戸隠地区の姉妹町である宮崎県高千穂町へのホームステイは、新型コロナや台風の影響で、令和二年以降実施できませんでしたが、今年八月五日から八日の日程で、小学五年生二名と中学二年生三名、引率者三名の計八名が訪問しました。



高千穂町長を表敬訪問

八月五日の朝七時半に戸隠を出発した一行は、羽田空港から熊本空港へ向かいましたが、雷雨の影響で高千穂町には二時間遅れの夕方六時過ぎに到着しました。小中学生は少し緊張しましたが、ホームステイ先へ移動しましたが、翌日から高千穂町の子どもたちと打ち解け、町内の見学や交流会などを楽しみました。

二日目となる八月六日は、高千穂町の甲斐町長を表敬訪問した後、トロッコ列車に乗

### トロッコ列車



迫力ある高千穂神楽を見学

り、高千穂鉄橋から雄大な景色を一望しました。その後、延岡市内のプールで水遊びをし、ホームステイ先に帰りました。

### 戸隠との関わり

三日目は「天岩戸（あまのいわと）神社」を訪れ、宮司から天岩戸伝説や戸隠神社との関わりなどを聞きました。続いて神々が集まり相談されたとい伝えられ、石を積んで願うと、願いが叶うとされる「天安河原（あまのやすがわら）」を参拝しました。その後、境内の建物で「高千穂神楽」を見学しました。神楽は三十三番まであり、夜通し行われるそうですが、今



天安河原を参拝

### 参加した小・中学生の声

- ・学んだことは「神のつながりは人とのつながりにもなる」ということです。
- ・新しい友達が増えたり、良い思い出もでき、とても楽しい4日間でした。
- ・友達との交流だけでなく、同じ神話を持つ高千穂との交流が貴重な体験。
- ・最初は緊張したけど、帰る日は寂しく、まだ高千穂町にいたいと思った。
- ・高千穂は遠く、気候も全然違うけど伝説でつながっていて、戸隠と似ているところもあり、身近に感じられた。

回は代表的な四つの舞いを披露していたいただきました。迫力ある舞い、笛や太鼓の音に圧倒されました。高千穂峡は「国の名勝」に指定されており、遊歩道からみる「真名井（まない）の滝」はとても美しい景色で、高千穂町観光協会のガイドさんの説明も大変楽しい内容でした。最終日は、役場や受け入れ家庭など、大勢の皆さんに見送られ、高千穂町をあとにしました。



高千穂峡

## 成人式

# ふるさと戸隠と 仲間を思う

令和六年度の戸隠地区成人式が八月十五日に戸隠公民館で開催されました。本年度は十九名の新成人が出席し、小学校の恩師や戸隠地区の関係者などとともに成人を祝いました。式典では新成人を代表して、竹之内桃花さんが「戸隠の雄大な自然



とあたたかい地域の皆さんのもとで育った。この先、困難なこともあると思うが、ふるさと戸隠と新成人の仲間がいる。挫折を味わっても今日の成人式を忘れずに乗り越えていきたい」などと、誓いの言葉を述べました。記念写真の撮影に続き「メモリアル企画」では、新成人の小学校入学から中学校卒業までの思い出深い写真が映し出され、会場は大変盛り上がりました。その後、新成人から小学校の恩師二名に感謝の花束が贈られ、和やかなうちに終了しました。

## 地区懇 ぷらす

# みんな でタイムライン を考えた

本年度第一回目の「地区懇談会。ぷらす情報交換会」が、七月八日に戸隠中学校で開催されました。今回も、昨年に続き「地域の防災について考える」をテーマとし、小中学生と住民が地域ごとに分かれて災害時のタイムラインを作るこ



グループごとに、おとなと子どもが話し合う

とにしました。この日は子ども六十三名（小学五・六年生、中学生全員）と、地域のおとな（区長や民生児童委員、青少年育成委員、学校関係者など）五十四名が参加し、十一グループに分かれて自分たちが住む地域の、災害時におけるタイムラインを考えました。

## いつ、どこに避難

最初に市危機管理防災課の後藤防災対策官が、最近の降雨の傾向やハザードマップ、避難行動などについて説明しました。その後、各グループでは中学生が進

行して「どんな情報で、いつ避難するのか」「どこに避難するのか」などについて話し合いました。また、自分たちの地域の避難所を確認したり、避難を始めるタイミングなどをいっしょに考えました。グループの検討結果発表では、中学生から「小学生やおとなの皆さんと話すことで、災害について、より多くのことに気づかされた」「戸隠は高齢者が多いので、早めの避難が必要と思った」「状況によっては避難所ではなく、自宅に留まることも選択肢となる」等の意見がありました。

## 大きな意義

第二部では、参加した地域のおとなの皆さんが後藤防災対策官を交え、災害や避難などについて意見交換をしました。地域の皆さんが学校へ出向き、同じ地域に住む子どもたちと災害について一緒に考え、話すことで、別の視点から地域防災を見る良い機会となり、大きな意義がありました。

# 合併20周年記念 戸隠地区住民大会

平成十七年に戸隠村と長野市が合併し、まもなく二十年を迎えます。この節目を記念して、九月八日に戸隠地区住民大会が開催されました。合併後に戸隠地区で生まれ育った、次世代を担う子どもたちとともに、この大会を行うことで、戸隠への思いと住民の一体感を深めようとするものです。会場の戸隠公民館には、地区住民をはじめ舞台発表などをした小学生・中学生・高校生や住民自治協議会の役員など、二百五十三名が参加し、盛大に行われました。



## 長野吉田高校 書道部

戸隠神社の鳥居を描いた紙に、今後の戸隠地区の発展を願って「悠久」「永遠に栄あれ」と力強く書きました。会場からはBGMに合わせて手拍子が起こり、書き上がると大きな拍手が贈られました。



**開会式** 主催者である羽場住民自治協議会長は「戸隠地区は少子高齢化をはじめ課題が山積しているが、合併20周年を節目とし、これまで以上に安全安心で暮らしやすい地域づくりに向け、住民の皆さんと知恵を出し合いながら進めたい」とあいさつしました。



## 戸隠小学校5・6年生 TOGAKUSHI ソーラン

今年の運動会で行ったリズム「ソーラン節」に合わせて、組体操を披露しました。振りも自分たちで考えたということで、会場には元気な声が響きました。



## 長野吉田高校戸隠分校 そば部

高校生そば打ち大会で毎回好成績を収めている「そば打ち」の技を披露しました。顧問の先生が競技としての「そば打ち」の難しさや、全国大会の様子などを説明しました。

## 地質化石博物館 田辺先生の講演と、戸隠中学校の研究発表

中学生が学年毎に戸隠の地質、自然、歴史、文化、産業などについて調査研究した成果を発表し、田辺先生がその内容に関連して講演されました。また先生は、戸隠の「水の良さ」「自然の良さ」は魅力的で未来への宝物であり、ここに住む人の誇りであると述べました。

